

OISA NEWS

OITA
INFORMATION
SERVICE INDUSTRY
ASSOCIATION

2015. 4

65

発行：大分県情報サービス産業協会
会長 森 秀文
<http://www.oisa.jp>
編集：広報委員会
事務局：大分市城崎町2-6-31
(大銀コンピュータサービス(株)内)
TEL (097)537-5918
FAX (097)534-4545
印刷：佐伯印刷株式会社

大分県情報サービス産業協会



CONTENTS

平成26年度 新年例会	2
来賓ご挨拶	3
平成26年度 特別講演会	4
第23回サウンズコンテスト	6
社会貢献活動参加	
第64回 別府大分毎日マラソン	8
平成26年度 第2回視察研修	8

日田市中野川

平成26年度

大分県情報サービス産業協会 新年例会開催



森 秀文 会長

平成26年度の新年例会が、1月21日(水)に大分市のトキハ会館にて、ご来賓並びに会員企業多数出席の中、盛大に開催されました。

まず、最初に森会長より新年のご挨拶がありました。

ご来賓の方々と関係機関及び団体への平素のお礼に続き、今年はインターネットが更に普及し、「人の生活を豊かにする」「人の夢を実現する」「社会的な課題を解決する」そのためのITの活用が一層進むのではないかと所見を述べられました。

続いて、ソフトパークの開設30年記念イベントや、県立美術館のグランドオープン、JRおおいたシティの開業、東九州自動車道の開通に触れられ、地方では未だ景気回復の実感に乏しいなか、大分県ではこのようなフォローの風が吹いており、しっかり受け取っていく必要があるとお話になりました。

最後に、サウンズコンテスト、別大マラソンの給水ボランティア等、本協会行事への積極的な参加のお願いと、関連企業・関連団体の皆様のご発展とご健勝を祈念して締めくくられました。

引き続き、大分市長・釘宮磐様、九州経済産業局情報政策課課長補佐・宮原泰宏様からのご挨拶を頂戴し、特別講演へと移りました。本年は、アフリカンサファリ獣医師 神田岳委様から「どうぶつと共に生きる」という演題でご講演をいただきました。

その後会場を移し、小田理事の乾杯のご発声と共に新年祝賀会が開催されました。なごやかな懇談を経て、最後に小野理事によるご挨拶をもって、盛会のうちに終了しました。



新年祝賀会 ご挨拶
大分県商工労働部理事兼審議監 河野恭介様



小田均理事



懇親会風景



小野敬一理事

来賓ご挨拶



大分市長
釘宮 馨様

皆さん、明けましておめでとうございます。どうぞ本年もよろしくお願ひ申し上げます。新年を迎えまして、今日はもう3週間でございます。私も月日の経つ早さを改めて感じているわけですが、今年には特に、先程森会長のお話にもございましたように、大分市には大変明るい話題が多いわけでありまして、これも皆さん方のこれまでの

様々な形でのご支援、ご協力の賜物とあらためて心からお礼申し上げます。

特に皆さん方には、少子高齢化そして人口減少が進む中、ICTの活用というものが今後、人、物に代わる様々な形のツールとなるわけでございます。皆さん方のそうした取り組みがこれからの将来をまさに拓いていく、そんな思いが致す今日であります。

さて、先週今年の正月の挨拶回りで、大分市に進出する企業のトップの皆さん方とお会いする機会をいた

だしましたが、その中で、一様に皆さん明るい見通しを示されておられました。本当にこの見通しがしっかりと実を結んでほしいという思いでいっぱいでございます。

皆さん方の今後の様々な形での活躍が、これからの将来の課題を着実に解決に導き、私たちの次の世代、そして次の世代にしっかりと責任を果たしていかなくてはならない、このように考えていますので、皆さん方の益々のご精進を心からお願ひを申し上げる次第です。

最後になりましたが、大分県情報サービス産業協会の更なる発展と、それぞれの企業の皆さんの今年1年のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



九州経済産業局情報政策課
課長補佐
宮原 泰宏様

たいと思います。

貴協会におかれましては、平成元年に設立されたと聞いていまして、地域の情報化や情報サービス産業の振興・発展に貢献してこられました。大分県の情報化の進展には、貴協会の長年にわたる貢献が多岐にわたることは言うまでもなく、関係各位の皆様方のご尽力に改めて敬意を表すところでございます。

昨年6月に改定されました、世界最先端、IT国家創造宣言では、産業の成長のために戦略的なIT利活用を促しています。IT関係の投資としましては、統計上、年間20兆円という金額が出ています。ただ、国内のIT投資の多くは、既存のシステムの維持に係わるものが大部分で、新規の戦略的投資は3割程度とされています。まず、ITの資質をそういう戦略的な面に変えていくことが重要かと思っています。また、政府ではビッグデータ時代に必要な個人情報の利活用のルールを見直しています。個人情報保護法の改正が今国会で決まる予定になっています。そして、マイナンバー法に基づく個人の通知が今年10月頃から始まります。先程森会長からオリンピック・

ただ今ご紹介にあずかりました、九州経済産業局情報政策課の宮原と申します。今年もよろしくお願ひします。本来ならば、当課の課長なり部長なりが出席してご挨拶というところではありますが、業務の都合により私からご挨拶させていただきます。

平成27年の新春を迎え、謹んでお喜び申し上げますとともに、貴協会の新年例会が盛大に開催されますことを、心からお祝ひ申し上げます。

パラリンピックの関係を言及されたのですが、このオリンピック・パラリンピックに向けて、システム開発に繋がるような状況も生じています。そういう状況を、貴協会におかれましては、これらに動きをご活用していただくとともに、地元の農業や観光業、そういう分野もITの力によって高めていただいて、大分県はもとより、九州の情報サービス産業の発展を牽引して下さいますことを期待しているところでございます。

九州経済産業局としましては、IT産業の振興とともに、安心・安全なIT利活用のための基礎となる情報セキュリティ対策などを推進してまいります。九州経済がより力強いものとなるよう、皆様と一緒に力を合わせて取り組んでまいり所存でございます。

皆様方におかれましては、産業の発展に利活用をお願いしたいと思っております。「ものづくり・商業・サービス革新事業」という横書きの一枚紙をお手元に配布させていただいております。1月9日に平成26年度の補正予算が閣議決定されています。また、1月14日には、平成27年度当初予算案が閣議決定され、今国会で決定されることになっています。この、ものづくり・商業・サービス革新事業の補助金においては、昨年度と比較して減額になっていますが、2ヶ年継続ということで、1,000億円超の金額が計上されています。皆様方の事業のご発展のために利活用していただければと思っています。

また、震災以降の節電対策につきましては、皆様にご協力をお願いいたします。この場をお借りして、厚く御礼を申し上げますとともに、今後とも引き続き、ご協力ご理解を賜りますようよろしくお願い致します。

最後になりますが、貴協会の益々のご発展と、本年が皆様方にとりまして、輝かしい1年となりますことを、心より祈念申し上げます。簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。今年もよろしくお願ひ致します。

平成26年度 特別講演会

演題

「どうぶつと共に生きる」

日時：平成27年1月21日(水)

16:00～17:30

場所：トキハ会館 6階 ローズの間

講師：かんだ いわい 神田 岳委 様



皆さんこんにちは、アフリカンサファリで獣医をしております、神田岳委と申します。アフリカンサファリは、開園して39年になります。今、一番背の高く大きいキリンから500円玉くらいの小さいロボロフスキーハムスターまで1,400の動物を飼育しています。

私の専門は大型のネコ科動物の繁殖学ですので、トラとかライオンとかチーターの産婦人科医だと思っていただければ結構です。

ある日、飼育員さんにかなり馴れているリッチという名前のライオンが産みました。しかしライオンはより大きく産んで、より強く大きく育てる動物のため、小さくて、足手まといになるような赤ちゃんライオンは殺してしまう時があります。殺してしまっても10日したらお母さんにすぐ発情が来ますから、そこからまた110日で赤ちゃんが産まれます。そうやってより強い血を残していくのがライオンです。飼育員の『だから百獣の王なんよ。』が印象的でした。この時の出産では3頭とも殺してしまうところでした。

最後に見つかったもうほとんど虫の息の赤ちゃんを、私も若かったし『僕が育てます!』って引き取りました。

そこからが地獄でした。当時は法律上、家に連れて帰っ

て良かったんです。ミルクなんかちょっとずつ15分置きに注射器でチョビチョビやるんです。その時にジュジュって飲めば哺乳瓶に切り替えます。1週間目に感染症が起りやすくなっちゃうんです。何故かという、初乳という最初のおっぱい飲んでないからです。1週間超えたらまたドキドキ。2週間目になると、目が開き痩せた小さな雌ライオンでとても可愛かったです。2週間経った時に名前を決めました。「リッチ」の「リ」の字をもらって、「リボンちゃん」と名付けました。

しかし私がずっと飼い続けたら、群れに入れられないんです。ライオンが群れに入るルールはひとつだけです。それは挨拶が出来るかどうかです。その挨拶を教えるのは人間では出来なくて、例えばお爺ちゃんお婆ちゃんライオンとか、人間で言うと学校の先生みたいなライオンがいて、誰の赤ちゃんでも受け入れてくれるんです。でも、そのライオンは大体3～4ヶ月位が限度で、それより大きくなったら預かりません。だから今しかないんです。

『今日からもう、リボンに会いに来たら駄目よ。あんた見たら甘えるけん。』

そりゃ、むちゃくちゃ寂しかったです。

結局一年位ですかね。会いに行っていていいって言われて嬉しかったです。

リボンの檻に行き行って張り付いて『リボン!』て言ったら、こっち向くんです。リボンが首を傾げてる。近づいて手の臭いをククンって嗅いだら、檻に体中擦り付けて、『触れ〜』って言うんです。わかったんでしょうね。

ある日、飼育員さんが言うんです。『リボン、サファリゾーンに出してあげるよ。』朝早く行って、リボンだけ動物ゾーンに出しておいて、後で群れを出すんです。その時に、きちんと挨拶出来たら群れに入れるんです。リボンはちゃんと挨拶をして、お昼にはもう動物ゾーンの真ん中で、大股開いて寝てました。リボンが、「オックス」っていう、一番モテる雄とデートしてるんです。

ライオンって110日で産まれますから。110日が近づくに



つれ、今度は怖くなったんです。私が育てたライオンが、赤ちゃん育てるやろうかと。我々にとっては、赤ちゃん産まれる瞬間って天国です。でも動物が死ぬって地獄です。赤ちゃん出産の時に死なれるのが一番嫌なんです。114日目くらいかな。陣痛が始まり、30分置きに見に行っていたんですけど、いよいよ本陣痛が来た時に怖くていけないです。行ってリボンが血だらけのライオンを啜えてたら嫌じゃないですか。大体お母さんと同じ時間に産みます。7時半位に懐中電灯持って『リボン!リボン!産むか?産んだか?』と言いながら行ったら、背中向けて寝てました。で、おなかを照らして顔も照らしたら初産って結構泣くんです、動物って。涙流してる跡があって。3頭の赤ちゃん、ちゃんとおっぱい飲んでたんです。『はあ〜良かった〜』と思いました。

結局、リボンは28頭の赤ちゃんを産みました。一度じゃないです。分けて産みました。遠くはドイツの動物園にも行ってます。

大体ライオンの寿命って12年から14年位で、リボンも13才になりまして、人間で言うと80才を超えた位だったんです。食も細くなりまして、朝昼晩と私が毎日餌をやりました。これが3日目の昼位ですかね、飼育員さんが『リボンが呼吸しよらん!!』って。瞳孔が反応してない暇がもう動かない、もう科学的には死んでる状態です。

亡くなりましたって手を合わせて、そこにいと期待しちゃうような気がして、獣医室に戻ったんです。そしたら、飼育員さんがコンコンって来て『先生、どうする?』って。『どうするって、何が?』解剖しますか?って話です。死因も分かっているのに、それでもリボンを切り刻むかっていう飼育員さんの気遣いだったんですけど、だからこそしなければいけないって思ったんです。獣医室に運ばれて来ましてメスをもらって切ろうと思ったら切る気は満々なんですけど、手が震えて、前にも後ろにも行かないです。こんなのは獣医20年やってますけど初めてです。もう、プルプルなんです。『じゃあ、お前代わりに俺が切る。獣医やねえけどの、いいな。』って言われて、『お願いします。』って。内臓見たらもう腎臓なんて無茶苦茶です。腸だってもうムッチャクチャです。「痛かったやろうな〜」、「苦しかったやろうな〜」と思いました。

胃を開いたら昼にあげた赤いお肉が入ってました。胃を抜いたら十二指腸があって、小腸、大腸、結腸…普通はウンチに段々になっていくんですけど、十二指腸開いたら赤いお肉だったんです。その次の腸開いても、赤いお肉だったんです。2、3日前にあげたお肉が残っていて、胸がキューってなりました。人間だったら消化出来ないものを食べれば、痛くて苦しくて飲み込めもしないと思うんです。

生きてる間にどうしてあげれるか、が飼育です。死んで

から何してあげたかった、どうしてやりゃ良かったなんて、動物に一切関係無いです。例えば「飼育」という言葉があります。飼育員さん曰く、『飼育は、動物を幸せにしちゃりたいんや。自分がされたら嬉しいことをするんよ。』って言うんです。飼育ってそういうことなんです。我々は生きてる間に、自分がされたら嬉しいことをしてあげよう、と思ってるんです。そうしたら、動物が笑うんです。泣くんです。怒るんです。その表情が分かるようになるのが「飼育」で、基本的に自分がどういう思いで見ているかだ、と思うんですね。

例えば皆さんのお家にも犬が居るでしょう。メダカが居るでしょう。カブト虫が居るでしょう。何の動物でもいい何の虫でもいい魚でもそうです。一番可哀想な動物は名前の無い動物です。

家にメダカが10匹居ます。10匹とも名前付けてあげて下さい。「飼育」が変わります。家族の扱いが変わります。カブト虫でもそうです。『ただいま!』って言って下さい。ご飯あげる時に適当にあげないで下さい。『どうぞ』って言って下さい。帰って『どうぞ』って言った瞬間に『ただいま!』って言ったら、待ってくれるようになりますよ。

犬でもそうです。行ってくる時に『行ってきま〜す』って家族には言うけど、犬にも言わなかったらどうでしょう?犬は一日中そこで『俺には何で行ってきますっち言っくれんのやろう』って考えたら、幸せなわけがないんですよ。是非、今日帰ったら動物達に『ただいま!』って言ってあげて下さい。名前を付けてあげて下さい。私もそういう思いでサファリで仕事をしています。そういう思いを重ねてリボンの時のように何かしらの心が通じた瞬間が多分、動物と共に生きていく瞬間じゃないかなと思います。

もう時間になりました。ご清聴ありがとうございました。

(総務委員会)



第23回

サウンズコンテスト

日時：平成27年1月24日（土）13：30～17：00

会場：iichiko総合文化センター 映像小ホール（地下1F）

ON THE COMPUTER

今年で23回目を迎えたサウンズコンテストOn The Computerは、1月24日（土）に大分市のiichiko総合文化センター映像小ホール（地下1F）で開催されました。

今回の応募曲は101名140曲を数え、その中から厳選なる予選を通過したフリー曲部門24曲、トリニータ応援歌部門6曲の合計30曲で本審査を行いました。

今回からフリー曲部門に「学生の部」を設定し、幅広く入賞のチャンスが得られるようにしました。今回も前回好評だったUstreamによるLIVE中継を行い、審査会場の生の映像を配信したところ、361名の方々からご視聴いただき本コンテストへの興味を引くことができました。



会場の様子



森会長挨拶



グランプリ 遠藤豪輝さん



インタビューの様子

審査結果

	氏名	年齢	地区	タイトル
グランプリ	遠藤 豪輝	28	山梨県	The Star Festival
フリー曲部門一般の部 1位	宗野 晴彦	55	大分県	Returns to Hades <魂の旅人より>
フリー曲部門一般の部 2位	I W A P T	非公表	東京都	Walking Deadmen
フリー曲部門学生の部 1位	大石 佳正	26	神奈川県	アルファ・チャンネル
フリー曲部門学生の部 2位	大田 由優菜	22	神奈川県	運命の刻
トリニータ応援歌部門 最優秀賞	永藤 賢一	53	栃木県	Sunrise Express
審査員特別賞	中島 直樹	18	東京都	This is my life

今年もインターネットにより全国的に作品を募ったことで、多数の応募があり、レベルの高い激戦となりました。その厳しい競争を勝ち抜き、みごとグランプリに輝いたのは、山梨県の遠藤豪輝さんの作品“The Star Festival”でした。

この作品のコンセプトは、「七夕をイメージした楽曲で、美しく壮大ながらも儂い^{ほかな}感じを表現した」とのことで、非常に素晴らしい出来栄でした。

また、年々増加する県外からの参加者に感謝の気持ちを込めて大分銘菓「ざびえる」をお土産としてお渡ししました。



表彰式



入賞者の方々

トリニータ応援歌

今回も、大分フットボールクラブの後援による「トリニータ応援歌部門」を実施しました。今シーズンはJ1への復帰を願い、活躍を期待する気持ちのこもった楽曲が印象的でした。

その中で最優秀賞に輝いたのは、栃木県の永藤賢一さんの作品“Sunrise Express”でした。

この曲は、3月15日(日)に開催された今シーズンのホームゲーム開幕戦前に大分フットボールクラブへ贈呈され、向こう一年間、大分スポーツ公園総合競技場(大銀ドーム)で開催される大分トリニータのホームゲームのBGMとして使われることになっています。

観戦に行かれる方は、試合前に流れる音楽にも是非ご傾聴下さい。

最後に、応募曲の編集、LIVE映像の配信、会場設営等で大変ご苦勞をおかけした日本文理大学関係者様、また、今回も多くの後援・協賛をいただきました各社様にも紙面をお借りして厚くお礼を申し上げます。 (イベント委員会)



贈呈の様子



トリニータ応援歌部門最優秀賞 永藤賢一さん

審査委員

	氏名	審査歴	備考
審査委員長	田村洋彦	19回目	大分大学名誉教授(音楽科)・東アジア作曲家協会顧問
審査委員	久保田栄子	13回目	Oita Sound Creator協会 事務局長
審査委員	清水慶彦	3回目	大分大学 教育福祉科学部 講師
審査委員	河野敦朗	2回目	大分県立芸術文化短期大学 作曲コース教授
審査委員	津行孝充	6回目	大分県情報サービス産業協会 事務局長

第64回 別府大分毎日マラソン ●●●

社会貢献活動参加



平成27年2月1日(日)に第64回別府大分毎日マラソン大会が開催されました。

高崎山・うみたまご前をスタートして、別府市亀川で折り返し、大分市営陸上競技場でフィニッシュするこの大会は、マラソンランナーの登竜門として全国的に定着しています。

当協会からの給水ボランティア参加は今年で4回目となります。当協会からの参加希望者は年々増えており、今回は165名が参加、ボランティアに参加した団体の中では最大規模となり、主催者側からの期待も年々増えています。

給水場所は3ヶ所ありますが、最初の給水場所、別府テルマス前13.5km地点は、スタート地点から近いため、ランナーが一斉となって殺到し、給水所はまるで戦場のような慌ただしさとなりました。ボランティア参加の年配の方から若い学生さんまでが一丸となって、いかに早く給水コップを補充するかに専念します。コップを並べる→水を入れる→コップをテーブルの前に出す、という動作を、これ以上ない

ほどの速さと手さばきでこなしていきました。

小一時間ほどで給水は終わりますが、参加した全員が、整然と後片づけまでおこないました。ほんの数時間前に出会った老若男女が一体感を持って作業し、充実感にあふれた笑顔で帰路につきました。



総務委員会では、次回も継続して給水ボランティアを企画する予定です。本年11月に募集を開始しますので、リピーターの方、まだ参加したことのない方に、是非参加して、日常生活では味わえない新たな感動を共有していただきたいと思います。

(総務委員会)

平成26年度

第2回視察研修

日程：平成27年2月6日(金)
視察先：株式会社藤井養蜂場、田川市石炭・歴史博物館
参加：14社20名

当日の朝は雪のため、高速道路が通行止めとなるトラブルから始まりましたが予定していたコースを逆順で視察を行い無事に全行程を終えることが出来ました。

視察内容

田川市石炭・歴史博物館(午前)

博物館ガイドの方より先ずは館内にて、石炭の成り立ちや当時の石炭の採掘方法や炭鉱で働く人々の生活風景について説明を受けた後、屋外展示場にて、石炭の採炭・掘進・運搬などに使用された大型機械類や、復元された明治・大正・昭和期の炭鉱住宅を見学しました。

最後にまた館内に戻り、国内初のユネスコ世界記憶遺産に登録された「山本作兵衛コレクション」の炭鉱記録画や日記等を見学しました。

株式会社藤井養蜂場(午後)

藤井養蜂場職員の方より、資料室にてミツバチの生態や天敵である熊やスズメバチからミツバチを守る仕掛け等の説明を受けた後、実際に蜂の巣箱の中を見せてもらい間近で本物の女王蜂や巣に出来た生の蜂蜜を見学しました。また、工場の蜂蜜生成ラインや検品室、瓶詰めラインを見学しました。(企画委員会)



館内見学



ガイドの方より説明を受けている風景



藤井養蜂場にて



職員の方より説明を受けている風景

社名変更のお知らせ

(新)フューチャーインスペース株式会社 (旧)株式会社アセンディア
(新)九州NSソリューションズ株式会社 (旧)大分NSソリューションズ株式会社